

意見交換会開催結果概要

- 1 開催日時 平成27年11月25日（水）
- 2 時 間 開会 午後7時～ 閉会 午後8時30分
- 3 場 所 西部環境エネルギーセンター
- 4 参加人数 75名
- 5 出席議員 福田太郎議長、久保洋子副議長、
下沢広伸経済環境常任委員長、
麦田 徹経済環境常任副委員長、
広田美代経済環境常任委員、前 誠一経済環境常任委員、
松村理治経済環境常任委員、松井純一経済環境常任委員、
田中展郎経済環境常任委員、黒沢和規議会運営委員長、
野本正人総務常任委員長、
中西利雄市民福祉常任委員長、
山本由起子建設企業常任委員長、
高岩勝人教育消防常任委員長
（オブザーバー議員）
上田雅大議員、小間井大祐議員、坂本泰広議員、
松井 隆議員、中川俊一議員、熊野盛夫議員、
大桑初枝議員、源野和清議員、高 誠議員
喜多浩一議員、清水邦彦議員、森 一敏議員、
小阪栄進議員、小林 誠議員、秋島 太議員、
角野恵美子議員、玉野 道議員、安達 前議員、
横越 徹議員
- 6 次 第 別紙のとおり
- 7 結果概要 以下のとおり

麦田徹経済環境常任副委員長の進行のもと、福田太郎議長の開会挨拶に引き続き、出席議員の紹介を行った。次に、広田美代経済環境常任委員から平成27年度金沢市議会5月、6月、9月定例会議会報告を行った。下沢広伸経済環境常任委員長に進行をかわり、前誠一経済環境常任委員から意見交換会テーマ報告として「ごみ減量化について」の報告を行った後、市民との意見交換を行った。麦田徹経済環境常任副委員長の進行に戻り、久保洋子副議長の閉会挨拶で閉会した。

1. 開 会

【麦田徹経済環境常任副委員長】

皆様、こんばんは。お足元の悪い中、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまより金沢市議会意見交換会を開催いたします。

本日の司会進行を務めさせていただきます経済環境常任委員会副委員長の麦田徹でございます。よろしくお願いいたします。

2. 開会挨拶

【麦田徹経済環境常任副委員長】

開会に当たりまして金沢市議会、福田太郎議長から皆様に御挨拶を申し上げます。

【福田太郎議長】

皆さん、こんばんは。

ただいま御紹介いただきました金沢市議長の福田太郎であります。

きょうは大変寒い日になりました。また、この7時という大変難しい時間に多くの方が議会の意見交換会にお集まりいただき、まことにありがとうございます。

本日のテーマは、金沢市の「ごみ減量化について」であります。まだ議会が始まっておりませんので提案はされておきませんが、予想ならば12月か3月の議会にごみの減量化及びいろいろな問題について議論をすることになります。それについて、市民の皆様からいろいろな意見を聞いて議会に反映をしていこう、そういう趣旨できょうは開かれておりますので、短い時間かもしれませんが、ぜひとも皆様の忌憚のない意見を言っていただいて議会に反映をしていきたい、そういうふうに思っております。

きょうは本当に寒い中、御苦労さまでした。よろしくお願いいたします。(拍手)

【麦田徹経済環境常任副委員長】

ありがとうございました。

3. 出席者の紹介

【麦田徹経済環境常任副委員長】

ここで、今回の意見交換会に出席している議員を紹介いたします。

まずは、正副議長を紹介いたします。

先ほど御挨拶をいたしました福田太郎議長でございます。

【福田太郎議長】

よろしく申し上げます。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

久保洋子副議長でございます。

【久保洋子副議長】

こんばんは。よろしくお願いいたします。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

次に、今回の意見交換会を担当している経済環境常任委員会の委員を紹介いたします。

下沢広伸委員長です。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

下沢です。よろしくお願いいたします。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

田中展郎委員です。

【田中展郎経済環境常任委員】

よろしく申し上げます。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

松井純一委員。

【松井純一経済環境常任委員】

よろしくお願いいたします。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

松村理治委員。

【松村理治経済環境常任委員】

よろしく申し上げます。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

前誠一委員。

【前誠一経済環境常任委員】

こんばんは。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

広田美代委員です。

【広田美代経済環境常任委員】

よろしく申し上げます。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

次に、金沢市議会には経済環境常任委員会を初め5つの常任委員会と議会運営をつかさどる委員会として議会運営委員会がありますが、各委員会の委員長も出

席しておりますので、あわせて紹介させていただきます。

総務常任委員会の野本正人委員長です。

【野本正人総務常任委員長】

皆さん、こんばんは。よろしく願いいたします。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

市民福祉常任委員会の中西利雄委員長です。

【中西利雄市民福祉常任委員長】

こんばんは。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

建設企業常任委員会の山本由起子委員長です。

【山本由起子建設企業常任委員長】

こんばんは。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

教育消防常任委員会の高岩勝人委員長です。

【高岩勝人教育消防常任委員長】

こんばんは。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

議会運営委員会の黒沢和規委員長です。

【黒沢和規議会運営委員長】

こんばんは。よろしく願いいたします。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

また、今ほど紹介しました経済環境常任委員会の委員及び各委員会の委員長のほかの市議会議員についてはオブザーバーとして皆さんの左側に参加していますので報告させていただきます。

次に、本日の意見交換会の進め方について御説明をいたします。

受付で配付いたしました資料のうち、意見交換会という表題の資料をごらんください。

こちらの次第の4番になりますが、この後、議会報告といたしましてこの意見交換会までに行われました5月、6月、9月定例月議会の概要を中心として議会の報告をさせていただきます。その後、次第の5番になりますが、本日のテーマであります「ごみ減量化」について説明させていただいた後、次第の6番として、今回参加していただいている皆様からこのテーマに対する御意見を頂戴したいと思っております。

それでは、ただいまより始めたいと思いますが、始めるに当たりまして幾つかお願いをしたいことがございます。

1つ目、発言を希望する方は挙手をお願いします。私が指名しましたら、係員がマイクをお持ちしますので、意見を述べる前にお住まいの町名とお名前を言っ

てから発言をお願いいたします。

2つ目、今回は議会として開催している意見交換会ですので、議員の個人的な見解は述べないこととしておりますことを御了承願います。議員個人の考え方や意見を聞きたい場合は、意見交換会終了後にそれぞれの議員に対して質問されるようお願いいたします。

3つ目、本日の意見交換会の内容は、後日、金沢市議会のホームページに掲載いたします。皆様からいただきます御意見につきましても、お住まいの町名、お名前ともに掲載させていただきますので、あらかじめ御了承をお願いいたします。

4つ目、会場の都合もありますので、進行ぐあいにより御発言を希望される方が多い場合は、途中で意見交換の時間を打ち切らせていただく場合もございますので、まことに申しわけありませんがあらかじめ御了承ください。

4. 議会からの報告

・平成27年度金沢市議会 5月、6月、9月定例月議会報告

【麦田徹経済環境常任副委員長】

それでは、報告に移ります。

平成27年度金沢市議会の5月、6月、9月の定例月議会につきまして御報告いたします。報告者は、経済環境常任委員会の広田美代委員です。よろしく願いいたします。

[広田美代経済環境常任委員が平成27年度金沢市議会 5月、6月、9月定例月議会報告について別紙詳細のとおり説明]

【麦田徹経済環境常任副委員長】

ありがとうございました。

5. 意見交換会テーマ報告

「ごみ減量化について」

【麦田徹経済環境常任副委員長】

続きまして、本日の意見交換会のテーマであります「ごみ減量化について」の説明に移りますが、ここで進行を下沢委員長と交代いたします。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

改めまして、皆様、こんばんは。今晚のテーマに関する意見交換会の司会を務めさせていただきます経済環境常任委員長の下沢でございます。よろしくお願いいたします。この後は座って進行をさせていただきます。

まずは、今回のテーマであります「ごみ減量化について」、説明資料に従って御報告をさせていただきます。

説明の中には、先般13日に我々の委員会で示されました家庭ごみの有料化実施計画の素案が出されましたので、いち早く皆様にも御報告をさせていただきたいと思って今回入れさせていただいておりますので、説明が終わりましたら、きょうの参加の皆様から御意見を頂戴したいと思っています。

きょうは本当に、たくさんの方に御参加いただいておりますので、1人当たりのお時間、意見をいただく時間を少し区切りをつけまして、たくさんの方から御意見をいただこうと思っていますので、その点につきましても御了承をよろしくお願いをいたします。

それでは、テーマの説明は経済環境常任委員会の前誠一委員が行います。

[前誠一経済環境常任委員が意見交換会テーマ報告について別紙に基づき説明]

【下沢広伸経済環境常任委員長】

前誠一委員から御報告をさせていただきました。

それでは、今回、本日のテーマであります「ごみ減量化について」、皆様から御意見を頂戴したいと思っています。

このテーマを決めるに当たりまして、この委員会でもいろいろと話をさせていただきました。実際問題、地域であったり団体であったりいろいろな格差といいますか、その場所によって問題点であったり、疑問点があると思います。また、今回、パブリックコメントということで、皆様のお手元にも冊子をお配りをさせていただきました。これは本来、市役所に対しまして皆様のほうからコメントであったりということ報告とか伝えるものなんですが、我々も生の声を皆さんからお聞きしたいということで今回のテーマにさせていただいておりますので、なるべくたくさんの方の御意見を聞きたいと思っています。ですので、皆さん大体お一人3分から4分以内に、こういうことが地域にあるんだよということをお伝えいただければなと思いますし、また、まだまだ素案になっておりますので我々もわかる範囲しか答弁等はできませんので、恐らくきょうは一方通行に、こういう地域事情があるということをするような会、運営になるかなと思いますので、御了承いただきたいと思います。

それではまずは、意見を述べる前に住まいの町名やお名前を言っていただきまして御発言をお願いしたいと思います。

それでは、御意見のある方は挙手にてお願いいたします。

【参加者】

最初、ちょっと戸惑った気持ちもしました。議員の皆さんが来られる。各委員会の責任者の方でございしますが、市当局、行政職が来て説明されるのかなというふうに最初は思ったんです。ちょっとその辺はごめんなさいね。

というのは、今の御提案いただいた内容をお聞きする中では、有料ありきのように、ほかの方はどうか分かりませんが聞こえるんですね。というのは、ここにも先ほど御報告いただいたわけでありますが、この西部環境エネルギーセンターが建設、あるいはまた開業したその焼却量、焼却熱、そんなもののためはかなりその辺は変更されたんじゃないかなという思いがします。なぜかというと、ダイオキシン問題、社会的な要請でありますし、その抑制あるいは見通し。もう一つは、発電タービンについてでございます。その可能熱量ですね。そういうもののために効率の高い廃棄物を選んだんじゃないかなという、その選び方一つにしても、やはり年4回、中央に報告しているサンプリングの関係。皆さん御存じだと思うんですが、片仮名文字でサンプリングというのは、こういうものを金沢市で市民の皆さんが排出しておると。仮に1台の車両が積んできたものをあけて、それを4分の1にし、あるいはまたそれを一つ開いて4分の1にする。というのは、仮に長いものがあったても、右にやったり左にやったりするんじゃないなくて、そこを切って、本当にこの分量を同じにしていくという状況の中でいくわけですが、それをやはり地域、それはサンプリングをするごみを収集した地域、あるいはまた季節によっても資源物がかなり入っているんじゃないかというふうに思うわけがありますから、もう一つ言うならば、有料にする前に容器包装リサイクル法ございますね。あれを具体的に出していかなきゃならない。というのは、最初の容器包装リサイクル法の中では、ちょっと極端な言い方しますが、巻きたばこのたばこのケースというか殻というか、包装してある。ああいうものをやるかという話があったように聞いています。下のほうで、地方行政のほうです。というのは、じゃ、プラスチックの上に包んである紙をどうするか、中の紙をどうするかということが始まって今日に来ているんですが、金沢市がそういうものを、これをやれ、あれをやれって具体的なものを全然出してないかと思うんですね。やはりそういうものが出始めて、市民の皆さんにこれとこれはプラスチックだからこういうふうにしていただきたいとか、具体的なものを出して市民の皆さんは今の循環型エネルギーに持っていくんじゃないかと思うんですね。それが欠けているのではないかというのは自分では思います。

そういう中で、ぜひ啓発運動、リサイクルの啓発、ごみを減らす啓発運動を一番先にやって、あとにそれでもどうにもならないのであれば、受益者負担とは申しませんが、やはり有料化にしなきゃならないんじゃないかなというふうに思います。

以上。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ありがとうございました。

具体的にもう少し説明をしたほうがよいんじゃないかというこのような御意見かなと思いますので。

【参加者】

リサイクル法もあるし、容器リサイクル法ですよ。ああいったこと、これとこれとこれは金沢市は資源にするという形でやっていかないと、今の段ボールコンポスト、段ボールあたりは市民対象の業者が収集をやります。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

わかりました。ちょっとまた皆さんからお聞かせをいただければなと思いますので、よろしく願いいたします。

【参加者】

まず一つ、町会に入っていらっしゃらない方、金沢市で3割いらっしゃいます。その人たちへの広報、伝えることに対してはかなり不十分だと思います。たとえばそれが、ごみ有料化が通ったとしても、はっきり言ってカラスの餌になるし、また、みんな知らないから自分のごみ袋で出せばいいと思って、有料化ということを知らないから、だからカラスの餌になるということで町じゅうが本当に不潔になります。

それともう一つなんですけれども、今、金沢市は家庭ごみの有料化の目的はごみの減量及び資源化率の向上と言っていますが、ごみの減量化はごみを有料化しなければ実現できないことでしょうか。

私たちは、金沢市内の町会に入っている人たちは、長い時間かけて、ごみが減るために資源の分別に当番という形で時間を割いてきました。ある人は仕事を休んでまで、給料を減らしてまで頑張ってきました。確かに白い目で見られるということもありますが、町会のためということもありまして、休んでしたんですよ。それぐらい徹底して資源分別をする習慣ができてきた最中、三、四年前、松任もそうやからというて、高温度で家庭ごみを燃やせるといって金沢市はかまを購入したんですよ。それがために、最初はビニールものでも水で洗っても汚れの落ちないビニールものは家庭ごみと一緒にかまに入れてもいいということだったんですよ。ところが、もうどんどん月日がたつと、いや、それ見たかといっって、かまの火力をつけなければと、しまいには汚れのついていないビニールものまで資源分別をしないでどんどん家庭ごみと一緒に入れるようになってきております。これは職員の方は当番されてない方はわからないと思うんですよ。

それで、金沢市はごみの減量化への一貫とした政策がありません。最近出てきた話です。この有料化は。また、容易に市民に負担をかけさせております。まさしく今、ごみ代として私たちは税金を払ってきていますが、まさしく家庭ごみの有料化は税金の二重取りではありませんか。そこをよく考えてください。

金沢市は、今まで市民に対して優しい政治をやっていたというふうに言われていますが、これが通ったらとんでもないということで、先ほど言いました3割の方たちが町会に入っておらないということで、もう知らないということで、要するに自分のごみを出すということですね。もうカラスの餌になったり、ともかく

金沢市は不潔になります。

やっぱり若い人たち、子孫代々まで汚点を残さないように十分十分審議してほしいと思います。それだけです。よろしくお願いします。(拍手)

【下沢広伸経済環境常任委員長】

御意見いただきましてありがとうございます。

広報活動はこれからもしていかなきゃならないというような御意見かなと思います。

それでは続いて、お願いします。

【参加者】

金沢市には廃棄物に関する条例というものがございまして、そして、その中の6条に、市長のいろんな仕事がかかれていまして、市長はちゃんと意見を聞きなさいよという条文がございまして、市民はもちろん、事業者はもちろん、もう一つ大事なことは、地域団体ということがはっきりうたわれているわけです。地域団体とは何かといいますと町会なんです。今、町会の意見を十分聞いて本来は素案をつくるべきにもかかわらず、町会の意見はなしに、市民フォーラムを開いたからといって素案ができております。これは、間違いだと私は思っております。地域団体が入っていない、町会が入っていないんです。市民フォーラムで市民は500人足らず参加されたというふうに聞いておりますが、町会の数は金沢市は何ぼ、幾つありますか。1,358というふうに先般、山出元市長さんはおっしゃっていました。この中で山出さんはいろいろ金沢市のこれまでのやり方というのを説明されておりましたけれども、市民協働が非常に大事だということいろいろな話をされておったんですが、やっぱりそういう意見が抜けているというふうに思います。

そして先般、私ども大徳地区におきまして説明会を開催いたしました。町会長16名、そして婦人会も参加していただきました。初めて聞く人ばかりです。大徳地区は何をしているかといいますと、20年前から大徳地区としてのごみの袋を使用しております。リッター当たり0.3円です。市販のものよりも若干高い値段です。そして、婦人会の方から質問がありました。私たちはよそよりも若干高いけれども、分別して減量するために一生懸命それを使っているんだと。安いのはあるんですよ。だけれども、そういうことを一生懸命やって、そして分別して、立ち当番しながら一生懸命取り組んでいるんだと。そういう話をして、市の担当者にこういう動きを私たちはこれからもやっていきたいんですがと。その袋のことも尋ねたわけです。そうしたところ、その担当者のお答えは何かといいますと、大徳地区のやっていることは市の知っていることではないと、そういう発言をされたんです。市の関知するところではないとおっしゃいました。はっきりと。担当者はおっしゃったんです。そして、つけ加えて言うならば、その当時つくっていた袋のメーカーは倒産しました。今現在やっている人はそれを継いでいる方がやっておりますと、そういう言い方をされたんです。どういう意味なんでしょう

か。大徳地区がやっていることは評価されていないということなんですわね、はっきり申し上げて。評価されていないんですよ。どういうことですか。

大徳地区で平成4年、5年、6年、7年と4年間一生懸命婦人会活動しまして、そういうごみの分別をされた方の話を私は聞いてまいりました。夜の遅くまで、各町会を回って、8ミリのビデオを映写しながら訴えて、皆さんに啓蒙、普及活動をしてまいりました。そして、ちゃんとここにありますけれども、リサイクル推進協議会から表彰状をいただいております。こういうものをいただいているわけです。こういうものをいただいているにもかかわらず、市役所は一切関知しておりませんと、そういう話をされたわけです。

有料化の問題をこれから語る時に当たって、人なんですよ。一生懸命やる地域の方々がいたからこそ、金沢市の分別というのは成り立ってきたわけですよ。今の市役所の職員の中で、それだけの熱意がある方がいますか。あるなら手を挙げて言ってくださいよ。なぜ、我々大徳の地区の前でそんなことを言っていたくんですか。みんな、かんかんですよ。大徳地区は、今、金沢市の一番トップランナーですよ。自分たちが袋をつくってまで、高いお金出してまで分別に一生懸命頑張っている。これはトップランナーですよ。他の地区もそれをまねしようとして十一屋校下もやろうとしました。でも、できませんでした。やっぱりなかなか難しい事業なんです。だけれども、大徳地区は一生懸命、熱意のある方がいたからできたんですよ。今、市役所にそういう熱意のある方がいますか。

私どもの町会には、ごみのステーションが36あります。25世帯以上が利用しています。余っていっぱい、ネットがかぶらないこともあります。そうするとカラスがつつきます。その掃除をしなきゃいかんわけです。そういう問題があるわけですよ。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

確かに私も大徳地区のほうは指定ごみ袋を利用されていると当時はお聞きしておりましたが、今お話しされたことは初めてお聞きしましたので、まさに大徳の方が先頭を走って、いわゆるモデルをつくられたと、やっているというふうにお聞きをしておりましたので、またこの意見をかみしめていきたいなと思います。

【参加者】

私はこの問題について、まず反対の立場で意見を述べたいと思います。

まず、資源の減量化と有料化というのは別の問題なんだということです。私の生活実態から見ても、例えば1週間に2袋出しておると。これが、今、無料やから2袋出すけど、有料になったら1袋にするわと、そんな人はまずいません。まず、そういう点から見ても、有料化の問題と減量化の問題というのは別の問題なんだということなんで、そういう点で見ると、先ほども言われましたけどやっぱりどうもこの有料化先にありきという議論ではないのかなというのが一つあります。

それで、例えば減量化の問題を言うのであれば、例えば今、いろんな点で過剰包装という問題もありますけど、これは企業の問題でありますけど、過剰包装でないのかどうかというこういう問題とか、例えば野菜とかそういうものについて有機肥料にするようなそういうこともやっていますけれども、それを例えば市としてそういう装置をつくってそういうことで減量化するとか、そういう話になるのであって、減量化という問題で言うならば。例えば企業さんに協力してもらおうとか。それをどうも有料化というところのために減量化という話が出てきておるような気がしてしょうがないという点です。

それともう一つは、有料化の問題でいうと、今の私の生活実態から見て、やっぱり私自身の生活防衛から考えてみると、これ以上、市民サービスの低下はやめてくれと、これが正直な思いです。

私は今、年金生活やっています。本当に今、年金生活大変です。マクロ経済スライドということで年金が間違いなく減っていきます。私のその生活の不安は、今67歳、妻と二人暮らしという中で、やっぱり年金が間違いなく減っていく。30年、40年、間違いなく減っていくという問題と、それからやっぱり忍び寄る健康不安。それから介護というのは高くなる。国民健康保険もまた高くなった。そこへ持ってきて再来年には消費税がアップするというこういう中。それと、若いときにうち建てたけれども、本当は大分ぼろがきて直さなならんげんけれども直す金が出てこんなと、こういう状態で、そして今、年金生活、本当にひどいですけど、これまだじいちゃん、ばあちゃん、2人おるからいいけれども、誰か一人欠けたら、間違いなく生活保護というところにかざるを得ないというのが今の残念ながら年金生活者の実態です。何か三、四年前か、坂口厚労大臣が100年安心の年金と言ったけど、100年どころかあしたもわからんような実態ですよ。

そういう中で、またまた市民サービス、またこういう形で下げられると。例えば去年、風呂の入浴券がひとつまた下げられた。何もかもこんなふうにして下げられていくという点でいうと、私はやっぱり本当に20代と、それから60代、70代に生活困窮世帯という2つ山があるわけです。そういうことを考えたときに、余りにも安易に有料化というのは言い過ぎやというふうに思うんです。

だから、私はそういう点で金沢市が、かわいい金沢市民のためにする行政サービス、これからは一つぐらい、そんな受益者負担なんていうことを言わずに、一つぐらい100%金沢市が税金を使ってやると、これぐらいのものはあっていいんじゃないかというふうに思います。

よろしくお願いします。(拍手)

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ありがとうございました。

【参加者】

僕、金沢大学の学生なので、一番懸念しているのは不法投棄の問題です。やは

らしているんですから、やっぱり町内、都合のいいときは町内会に話しして終わり、もう伝わったでしょう。そうじゃなくて、町内会を都合の悪いときにだけ使うんじゃないで、町内会同士で例えばごみを減らすために、そこに住んでいる人全員でこのごみはこうです、このごみはこうですという話をもっともっと徹底させて、お互い競い合わせたらいかがですか。その中で具体的に減った人には報奨という形ですとか。取るんじゃないで、太陽と北風じゃありませんけど、負担がかかるから金払えじゃなくて、もっと努力してくれたら温かいもの出しますよという形が一番人間として向上しようかなって気持ちにもなれると思うんです。

そういうところをやはり突っ込んでいただきたいのと、最後に済みません。議員さんにお聞きします。こたつなんですけど、冬ですから皆さんこたつ、もう使われていると思います。こたつ、畳1畳分は、これはごみ収集場に出していいか悪いか。いいと思う人、手を挙げてください。大体1メートル80センチと50センチと60センチぐらいのこたつです。埋め立てとかそういうところに出していいかどうか。出していい人は手を挙げてください。手を挙げていないということは、収集には出してはいけないということですよ。それペケです。ちゃんとここに載っています。ということは、議員さんそのものが、皆さん自身が市役所の出している分類に対して全然興味がないということなんです。(拍手)

そこを徹底して、読んだ上でしないことには意見が言えないんですよ。強化しましょうじゃなくて、具体的に私たちの町では、私が住んでいる場所ではこういうことを徹底していますということを議会に言えなければ、有料にしようかしらまいかという話以前の問題なんです。そういうところを皆さん自身がごみを出しますか？ 分類してますか？ 実践して自分でやっていますか？ まず、そこからなんです。

私たちが、結構家庭のことは女性がおっしゃられますけど、じゃ、奥さんがいらっしゃらない男性の方はどうしていいかわからないから、みんなまとめて捨てるじゃないですか。それを町内会でフォローし合ってするというほうが一番だと思っんです。そういう考えが、もう市や議員さんたちの中にありません。そのところをまず一からやるべきだと思います。

そのためにもっともっと町内会を利用する、もっともっと町内会で話し合う、そういうことを提案、もう少し建設的な提案をもっとすべきだと思います。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

よろしいですか。今、こちらで僕らの言ったのはいわゆる有料化の話に当たりまして、無料で出せるかどうかという話の中で、こたつはあくまでも粗大ごみというんですか、有料でお金で払うときに出せると。

【参加者】

それでは、これはうそですか。

【下沢広伸経済環境常任委員長】 有料粗大ごみの中に……。

【参加者】

ここにいます。じゃ、これうそですか。

【田中展郎経済環境常任委員】

それは何。

【参加者】

金沢市ですよ。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ちょっとお借りしますね。

【参加者】

現にそれで私、もめたんですから。ごみに出されて、「いや、こたつ出したら困るんです」と言ったら、「いや、ちゃんと市の人に聞いたら大丈夫ですと言われた」と。途中で変わっているんです。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

わかりました。今、個人的なお話になっておりますので、後ほどこの話をさせていただきますということをお願いいたします。

奥の男性の方。

【参加者】

議員さん方、もっと勉強してから来てください。こんがらがっちゃいます。(拍手)

今、町会の会長で出てますけど、私、町会の町会長です。ヘイワ会ですけど、町会には何も話出ないです。そして、ごみの収集分別、一生懸命やっている町会ですよ。先ほどからずっと話ありますが、全く町会には何の話もなく勝手に決めちゃった。テレビコマーシャル勝手に流しちゃった。

学生さんもそういう話ありましたが、うちらも天神町ですから金沢大学の学生さんいるんです。大学の学生さん、外国人の方はわからない。不法投棄じゃなく不適正廃棄というのがあるんですけど、そういう専門用語あるらしいですけど、かなり多いですよ。うちは崖下ですので、あそこに高架走ってます、車の高架が。あそこからごみをぼんぼん捨てる。それを我々町内会でやっているんですよ、奥さん連中が。それに対して、議員の方々、そういうの見ているの？ 一回電話かけたら、市に電話かけたら、そんなものは町会で分別して出せよと。有料化になったら、それやってくれるの？そういうことまで全部町会に諮って、町会の意思決定してから、それから議会に諮って、それからコマーシャル流しなさいよ。NHKまでやっていたよ、朝のテレビで。有料化の方針。まるで誘導ですって、あなた方がやっているのは。

それともう一つ言いたいのは……。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ちょっとごめんなさい。ちょっとお待ちください。我々は今、お聞きをして、

こういう状況やということを知って……。

【参加者】

いいですか、まとめてやる。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

我々の話じゃなく、皆さんがどのような今、不法投棄心配だというお話はわかりました。

【参加者】

それともう一つ言いたいのは、先ほども言いましたけど、今、消費税上げるでしょう、8%から10%に。消費税上がる。全部、うちの町会のことですけど母子家庭とか年金家庭が多いんです。要するに貧乏町会です、うちの町会は。負担ばっかり。町会長も7年やっていますが、ごみ問題で頭悩ませるのが50%です。それで、これ以上、町会とか町会長を悩ませるの、あなた方は。有料になったら当然、今、学生さん言われたように不法投棄ふえます。わかっているじゃないですか、そんなことは。全部負担は町会長、町会員。お金儲けは市役所。(拍手)市役所にでっかい第二庁舎建てて、45億円の金使って、そういうことに惜しみなくお金を使う。負担は我々……。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

今、おっしゃる話は……。

【参加者】

後でいいです。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

まとめていただければありがたいなと思うのは、お時間の関係もありますし、ごみ減量につきまして地域のお話を言っていただきたいと思うんです。お願いいたします。

【参加者】

時間延長してでもいいですよ。

【参加者】

この間、皆さん言われたことと重なるんですけど、私なりに3点、意見を言います。

一つは先ほどの御説明の中にもありました9月議会のところにも書いてあるんですけど、「ごみ処理費用、ごみを減らす仕組みづくりは本来税金で行う仕事であり、家庭ごみの有料化を進めるべきではない」というのがまず私の意見です。

もう一つは、私も町会、向こうへ行って、いわゆる重いごみとかそういう草むしりなどを担当する環境部長もしたこともありますし、それと毎年当然、先ほどの方も言われたように1年に2回から3回、ごみ当番ということで朝、ごみの日は3人で時間合わせして、私は仕事も休めないの朝6時半から7時10分までやっていますけれども、何をそれで言いたいかといったら、私も含めてですけれど

も不必要なごみを出している方は皆無ですね。そういう意味でいうと、私この有料化したから減量化、資源化というのはまた別の問題だと思うんですけど、分別の。減量になるというふうにはちょっととても思えないですね。これが執行部の方がお金さえ有料化すれば減量化になるという根拠は何なのかなと。日ごろ、皆さんこうして小分けしているのを見ると、そのことは有料化イコール減量になるというのはとても思えないですね。しばらくの間はあれか知らないですけど。

やっぱり一番の問題は、ごみがなぜできるかというところの問題がちょっと、いろいろ議論されているかなと思うんですけども、抜けているのかなと。私、福井の勝山なんですけど、私の子どもころは、ごみは出ましたけど、完全に家でごみ、焼却というよりはジャガイモの皮をむいたら、その皮は家の前の柿の木かツバキの木のそこに捨てると。そうすると、それが肥料になってツバキが咲いたりとかということですし、何を言いたいかという、そういうことでちょっと燃やせるものは畑で燃やしているということで、いわゆるごみにどこかに出すというようなことはなかったんですけど、それは村中の人も全部そうですよ。そういう意味でいうと、今、町会でごみが出てくるのはある種やむを得ない。個人で何かできるようなことでないから出てくると。そういう意味では、生活者というやっぱり最終消費者ですよ。家庭ごみというのは、このごみは最終消費者として結局処分できないのがごみで出るということです。そういう意味でいうと、簡単じゃないんですけどやっぱりいろんな形で生産する中間の包装など、やっぱり今出ているごみをどう、梱包のところを減らすかというのはもっと大きい枠組みで、それは個人、家庭でできる話じゃないので、包装を減らすとかそういうこと含めてもっと大きな視野で、市やいろんな業者の人とも、県外から来るのもあるから簡単じゃないんですけど、そこをもっともっと詰めない、何か聞いていると大型のをつくって燃やせばどうだとかそんなことばかりじゃなく、もっとごみを減らすという話があんまり見えてこない。もっとその辺を考えてほしいというのが私の意見です。

以上です。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ありがとうございます。

【参加者】

一つは、この袋の中に入らった有料化実施計画、これもう少し正確に書いてほしい。例えば、ごみの減量、資源化率を向上しますと書いてある。1日当たりの排出量は1,038グラムで横ばい状態。資源化率は11%で全国平均21%を大きく下回って、中核都市39位と書いてある。ところが、排出量は中核都市で何番目なんですか。資源化は確かに書いてあります。上位になっていますね。ところが1人当たりの毎日の排出量の部分はどれだけなんですか。もっと正確に書いてください。

それと、この下にごみの公平性を確保しますって書いてあるね。公平性を確保します。今までの発言の中で、そういう発言は誰もいません。こういう話はどこから出てきたんですか。もっと正確に書いて。きちっとしたデータを出してください。ただでさえ不信感だらけなのに、もっと不信感ですよ。

それと、何人の方が言った、やっぱり町会を通じて説明して周知徹底してほしい。有料化が決まった後に周知徹底するんじゃなしに、有料化する前にきちっと、皆さんがどういう、一般市民の人がみんなどう思っとるんか、きちっと聞いてほしい。

それだけです。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

わかりました。

あくまでも私たち、きょうはこういうのが提出されましたということで皆さんにいち早くお示しをさせていただきました。こんなもん知らなかったと言われてもいかないだろうと思いましたが、させていただきます。

また、ちょっと今こちらのほうに御質問がありました情報というかデータがありましたので御報告させていただきますと、まず、家庭系のごみの排出、これ平成25年度分だそうですけども、そのときは45の市がありますけれども、そのときは8番目。

【参加者】

済みません。どこに書いてありますか。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

これは私のほうから今、御報告をさせていただきます。

それと、事業系がございますので、事業系に対しまして多い順で申し上げます。これは上から5番目、45都市の5番目に事業系が来ているというこちらが今ありましたので、御報告をさせていただきます。

【参加者】

8番というのは上から8番ですか、下から8番ですか。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

先ほど申し上げましたのは少ない順で8番です。

【参加者】

少ない順で8番で有料化するということ？

【下沢広伸経済環境常任委員長】

いえ、今、情報だけ。申しわけございませんが。

【参加者】

皆さんの意見と同じように思っているんですが、今回の有料化に関しては、突然、家庭ごみの有料化のことを聞きまして、どうしてっていう形でまずは思いました。

新聞では市のほうは4月にはもう有料化にしたいという形で何か報道されているんですけども、市民に何の説明で、ごみ削減の検証や努力も見られずに、ただ有料化ありきの形でどんどん進んでいくというのはどうなのかなと思うんですね。

それで、先ほど前の方がおっしゃっていたんですけども、1人当たりのごみの排出量は中核市の43市のうちの少ないほうから8番目と。それで、なぜ有料化していくかって本当にもっともな話だと思うんですよ。ごみは出てくるということで、それは減らさなくちゃいけないというのはあるんですけども、将来的にはもしかして有料化をしなければならない状況になるかもしれない。だけど、今はその時期ではなく、まだ減量、やるべきことをやって、それからその対処をどうしたらいいのかというのをやっぱり市民と話し合っていくべきだと思うんですね。

新たに10月からステーションのほうで古紙の回収がスタートになっていて、それがごみの減量にどうつながっていくという検証もなされぬうちに、市のほうはどんどん有料化、有料化って何かコマーシャルもして、新聞にも報道されてというのは、やっぱりいかがなものかなと市民の方は思われるんじゃないかなと思っています。

まず第1点、ごみ袋が1リットル1円って聞いたときに、えっ、何でその公式が成り立つのって私ちょっと思ったんですね。大体資源ごみを含めて月に8回もしくは10回、ごみ袋を45リッターでうちなんかは出すんですけども、そうしたら1カ月に450円。450円で年間でもっとかかるじゃないですか。そしたら、やっぱり10%の消費税が来年度かかっていくという中で450円、たかが450円と思われるかもしれませんが、やっぱり弱者の人というのはこのお金って大事なお金なんですね。それをただ、金沢市はごみ減量化に、全国でも少ないほうで頑張っているにもかかわらず、有料化で1リットル1円ということ自体、どこから公式が出ているのかというのが全然わからなくて、その収益が何に使われるのか。それも提示がない。それでは納得はやっぱりされないんじゃないかなと思います。

ごみ袋、ちょっと全然違う話なんですけれども、先ほどの資料を見させていただきまして、経済環境常任委員会の方が行政視察されていますね。これを見ますと、減量化と有料化の実施されているところばかり行って、大都市の名古屋とか横浜とかは減量で有料化にしようと思ったけれども、減量に成功しているということで、結局、有料化にならなかったと。減量させて成功したところをなぜ視察しないんですかって言いたいんです。そうですよ。やっぱり大都市がなったんだから金沢の都市でもできるんじゃないの。やっぱりそれをもっと考慮して調べていただいて、じっくり話し合っ、町会の話、町会長の方にも話が行ってないということは市民にも全然行ってないということですから、やっぱり根本から間違っている。先に市のほうがつくり上げて有料化にするんだというのば

っかり頭についちゃって、市民は置いてけぼりになっちゃっているという形のほうがやっぱりまずいんじゃないかなと思うんです。(拍手)

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ありがとうございます。

議会の視察に関しましては確かに先行事例を見るということを含めまして、また同じような規模といたらいいんでしょうか、も含めて視察をさせていただきました。確かにそれをやめたという部分での視察も必要だったのかなと今御意見いただきましたので。さりとて、次また行ってくれといってもなかなか行けないので、またその状況なり情報も僕なりにもまた話を聞きに行ければなと思っていますので、ありがとうございます。

【参加者】

2年前から私、リサイクル推進課のごみ対策委員を2年間、リサイクル推進課の指導のもと行ってまいりました。私どもの町会としては、昨今、小学生の子供がだんだん少なくなってきておるということで、小学校の資源回収、古紙回収が、従来は各家庭に回って、それぞれの御家庭の玄関前に出していたのを集めていたんですけど、それができないでごみステーションに持って行ってくれということになりましたので、私としてはそれでは決して持っていかないという思いで、町会としましては古紙回収を各家庭の玄関前へ出してくれと。町会で集めますよということで集めました。そのことによって、リサイクル推進課からの補助金も出ますし、市の町費にも足しになるということで大変貢献しているんですけども、それに伴って一般ごみがやはり若干少なくなっているように見えます。皆さん、持ってくる袋の中を見ても、大分中身が軽くなっているなという感じがいたします。ですから、確かに減量化はしています。

そこで、市会議員の方々はリサイクル推進課の活動というのを御存じなのかなというふうに思います。我々はそのリサイクル推進課からの提案などをいただきまして、辰巳丘町会としておいでるわけです。そこへもって、このごみ有料化というのはどうにも納得いかない。さんざんごみを少なくしよう、不法投棄をなくしようとして各町会努力しているんです。そこへもってきて、もし有料化になったときに、じゃ、その有料化の袋に入れておけば何でも出せるんかという安易な気持ちにもなりかねません。これが一番懸念される場所ですね。

もし、どうしても市会議員の方々、この有料としたいのなら、各戸別の玄関前収集にさせていただきたい。そうすると、不法投棄はなくなります。(拍手)

金沢市の集めている方々は大変厳しいですよ。袋持っただけでわかるんですよ。この中にどんなもの入っ取るかというのを。ペタッと紙張っていくんでんすよ。これは混在ごみです。これは資源回収のごみですとか。そういうのを皆さん、御存じじゃないでしょう。ですから、リサイクル推進課の方々と意見を交わして、このごみ有料化の意見を交わさないかんです。町会は特に大事です。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

ありがとうございます。

いろんな御意見いただいている中で、確かに玄関前に置いたらどうかねという御意見も僕らの中でも出てはいるんです。ただ、それがごみの処理経費云々を考えたときに、やはり週に1回なり2回出されている中で、それだけまた何十億ってかけることがまた費用対効果に対していいのかというのもまた議論の中に入っております。

いろんな部分、御意見は私たちもそういうほかでもお聞きはしておりますので、そういうことを含めまして。ただ、今、こういう逆で言うとその経費がまた大幅にかかることもあるということをお伝えさせていただこうかなと思います。

【参加者】

この資料を見て、きょう初めてわかったんですけど、有料化の中の不燃物の有料化ということ、私、知らなかったんで、改めて、えっ、不燃物の有料化ってとても難しいんです。ポリ袋に入れて結んで出すといっても、不燃物自体の形が大きいとか重たいとかいろいろな弱点がありまして、これを袋におさめきって結べるかどうかという疑問と、それから町会で役員が、燃やさない日は当番として立っているんですけども、不燃物の袋をあけて、中身、底まであけてそれができるかどうか。それからまた、置いていったごみはまた後日、役員が改めてみんな見て、正当な日に出したりしていますけれども、そのときにまた幾つかのごみ袋もまた要ると思うんですけども、そのごみの袋のお金はどこから出すのか。

それからもう一つですけども、テレビなんかでも要請があれば御要望に応じて幾らでも説明にまいりますよというのをよく聞くんですけども、そういう上から目線の考え方じゃなくて、市のほうから積極的に各校下、公民館、町会、婦人会のほうへ説明に出向いてくだされば、また皆さんの考え方も違うし、協力の度合いも違うと思うんで、よろしく願いしたいと思います。

【下沢広伸経済環境常任委員長】

確かに結ぶ云々がありますと、女性の力ではということもあるんでしょうし、また、その部分で考慮できればいいだろうなという思いもあります。

済みません。本来ならまだまだ御意見をお聞きしなきゃならないんでしょけれど、皆さんの封筒の中にアンケート用紙も入れさせていただいております。本来は全ての方をすればいいんでしょけれど、なかなかそういうわけにもいかないの、そちらのほうにまた書いていただきまして、お帰りの際、また受付のほうにお出しいただければなと思います。

また、その発言と同様に、答えられるようなことがありましたらホームページ上でも紹介をさせていただこうかなと思っております。

また、その意見は、きょう来ております議員全てにも配付をさせていただきまして、こういう状況であるよということを皆さんに周知をしようかなと思います

ので、皆さんのほうにはその辺よろしく願いをいたします。

本来はいろいろとお聞きをしなければならぬのに、時間が来ましたので、このテーマについての意見交換を終了させていただきます。

ありがとうございます。

【参加者】

済みません。もう一つお聞きしたいんですけど、ごみ有料化ありきですよ。そしたら、私たちが今反対意見ばかり言ったんですけど、もう有料化って決まっているんですか。

【麦田徹経済環境常任副委員長】

決まっていません。実際に今、僕らは行政の説明をしに来られたかのように勘違いされていますが、私たちも皆さんと、この中には有料化ありきという議論すべきではないという意見も議会の中で私たちも出していますので、その辺、残念ながらすぐ取り違えられているようですけれども、きょうは制度の説明に来たわけではありません。議会としては、議員の中、それぞれの意見がありますので、有料化がよしと考える者もいれば、そうでない者もおります。その考えをしっかりと議会としては、きょう、皆さんから伺った声を取り入れながら、次の議会につなげていくというための会でありますので、きょうは本当に貴重な意見をたくさんいただいたと思っています。

6. 閉 会

【麦田徹経済環境常任副委員長】

それでは、閉会に当たりまして、金沢市議会、久保洋子副議長からお礼の御挨拶を申し上げます。

【久保洋子副議長】

皆さん、お疲れさまでした。

私はきょう、本当に初めてこの意見交換会でこんなに多くの市民の方がお見えになったことに対して心から感謝を申し上げたいと存じます。お足元の悪い中、寒い中、ありがとうございました。

そしてまた、熱い町会長さんのごみに対するお取り組み、その熱心なことも伺わせていただいて理解を深めることができたんじゃないかと思っています。

ごみの問題は生活に本当に身近な問題であります。私も主婦ではありますが、なかなか100%の主婦さんのようなことをできないまま、今、議員活動とともにやっておるわけですが、そういうことは抜きにして、ごみの身近な問題について、これから、きょういただいた御意見も参考にしながら、経済環境常任委員会、議員の皆さん、そして議会における個々の議員の考えも通しまして、市政のよりよい方向性を見出すために、今後検討して議論を深めていきたいと思っています。

本日はまことにありがとうございました。お疲れさまでございました。(拍手)

【麦田徹経済環境常任副委員長】

最後になりましたが、受付の際、先ほど申し上げましたお渡しした封筒の中にアンケート用紙が入っておりますので、御記入の上、お帰りの際、受付でお渡しください。

それでは、意見交換会を終了いたします。

本日はお忙しい中、御参加いただきありがとうございました。(拍手)

以 上